



# たか子のあつたが通信

発行責任者：塩原孝子 連絡先：松本市寿北5-15-27 Email：takako092@outlook.jp ☎0263-27-1122（共産党）



アメリカいいなり、軍事拡大の政治から  
共同の力で  
希望ある新しい政治を

**消費税減税・インボイス廃止  
社会保障・教育予算を増やして  
暮らしに安心と豊かさを**

2026年がスタートしました。みな様の暮らし向きはいかがでしょう？昨年末には「物価高騰で年越しの用意も考えてしまう」「少ない年金でこの先どうやって暮らしていけばいいのか？」「物価は上がるのに賃金はおいつかない」という声をお聞きしました。

国民の声には耳をかさず無策の高市政権です。物価高騰対策には消費税の減税が一番効果があると言われていきます。一時的な交付金では国民の暮らしを底上げできません。

**憲法の条にもとづく外交の方で  
平和をつくる**

トランプ大統領の南米ベネズエラへの無法な侵略に何も言えない高市政権。台湾有事発言を撤回せず、中国との関係も最悪になってしまいました。



きずな村での相談活動

日本共産党は「日米同盟絶対」の空前的軍事拡大に反対し、中国との関係でも言うべきことを言いながら両国関係の前の向きの打開のための行動をしています。

**日本共産党の躍進を**

政治とカネの問題、統一協会との癒着も再浮上しています。最低賃金1500円の目標も投げ捨て、労働時間規制緩和、社会保障改悪などさらに暮らしを追い詰める高市政権は終わりにするしかありません。

暮らしを押しつぶす政治から、暮らし優先の政治へ！  
日本共産党を大きくして下さい。

# 12月議会



## 全会一致で採択

診療・介護・障害福祉サービス等  
報酬の引き上げを求める意見書

国による医療費削減政策が推し進められる中で、医療業界は「ある日突然病院がなくなり、地域医療は崩壊寸前」と警鐘をならしています。

松本市でも介護事業所の倒産が相次ぎ、障害福祉の事業所からは人材不足の声が届いています。

塩原は他会派議員と共同して、「医療機関存続のために国の責任による医療・介護・福祉分野における支援と従事者の処遇改善と物価上昇に対応した賃上げを求める」意見書をつくりました。これが全会一致で採択され、国に提出しました。

## 市内 介護事業所

### 倒産・休止が最大

宗田議員の一般質問で、この5年間で市内の介護事業所の廃止が59件、休止が20件で合計79件あることが分かりました。内訳は表のとおりです。

ケア従事者の平均賃上げ率は2%で他産業の5.5%に及びません。介護報酬のマイナス改定で賃金を上げることが難しい状況です。そのため人員不足になっていることが経営不振の主な原因です。

引き続き医療・福祉分野の方と力をあわせ、署名に取り組み、税金の使い方、「命を守る予算」優先にするよう国に強く求めています。



### 倒産・休止の内訳

市内事業所	件数
デイサービス	26
ケアマネ	21
訪問介護	12
ヘルパー	10
計	79

2021年～2025年

## 市民の声・議会を大切にする市政を

### 市役所建て替え パブリックコメント 軽視

老朽化して手狭になっている市役所の建て替えに向けて、前市長時に計画されていた基本計画が変更されていました。

スリム化分散化計画の庁舎計画について意見公募をしたところ、192件の意見が寄せられました。しかし計画に反映するとしたのは3件のみでした。

本庁舎跡地には何も建てないという基本計画に対して、多くの意見が跡地も含めて計画をし直すべきというものでした。その市民の意見は反映はされませんでした。市民の声を大事にすべきです。



### 松本マラソン中止 順序が逆

不正会計処理により、松本マラソンの中止が決定されました。

今後のあり方について、まず報道が先行し、次に大会実行委員会での中止の決定がされ、最後が議会で審議という流れでした。議会軽視です。順番が逆ではなかったかと思わざるを得ません。



## エアコン購入費補助 実施へ

9月議会で塩原はエアコンがないことは命に関わる事態だと質問し「市独自の支援策」の答弁を引き出しました。その予算が決定し

ました。対象は住民税非課税世帯と生活保護受給世帯です。補助上限額は一世帯あたり7万3千円です。長年の要望が実現しました。

## 水道料金基本料金が 4月から値上げに

人口減少による水道料金収入の減少、内部留保の枯渇、水道設備の更新にお金がかかるという理由でR7年6月議会で値上げの提案がされました。

共産党市議団は値上げせずに一般会計から繰り入れ補填して、物価高騰の折に市民生活を優先すべきと反対しました。

反対したのは共産党だけで値上になってしまいました。全世帯が年間5千円以上の負担になります。引き続き議会で要望していきます。



並柳団地

## 物価高 生活苦 命とくらしを守る

きずな村が市内の5か所で実施され、総勢250名を超える方を支援しました。私は並柳団地集会所に参加し、生活相談も受けました。

参加者の三割の方が子育て世帯の方で、今までになく厳しい実態が明らかになりました。

水道光熱費が高く、厚着をして節約しているが暖房費補助が欲しい



### 街の声

高校生です。学費が高く親の生活も大変で、これから先学費を出してもらえなか心配



年金が少なく貯金がないのでお金の不安がいつもある



今年はずり取り用ブリの切身が、うんと小さくて悲しかった



協立病院

食費が高いことが一番の困り事で主食は米ではなくなくなった



## いまこそ

## マルクスとともに現代と未来を科学する

「いま『資本論』がおもしろい」(新日本出版社)がひろかなブームです。「資本論」は難しいと思っっている方にお勧めです。



出した富を資本家が搾り取る仕組み(搾取)を解き明かしました。

今、資本主義という経済システムのの中で引き起こされる害悪(貧困と格差の拡大、深刻化する気候危機、雇用破壊等)で、人類はやっていけないのか? 資本主義社会のままでもいいのか?と問い直されています。

マルクスは働く人が作り

社会主義・共産主義の最も重要なキーワードは「人間の自由」です。自由に使える時間とお金が増えたら、芸術・文化の才能をふくめて人間のあらゆる可能性を開かせることができます。

資本主義の次に来る未来社会にわくわくしています。一緒に学びませんか。

## 小学校給食費無償化

共産党は70年前から無償化を訴えてきました。松本でも無料化をめざす「みんなの会」をつくり署名や宣伝行動に取り組みました。力を合わせて政治を変えました。さらに中学校にも拡大していきましょう。



## 水道基本料金2カ月減免

## 電子クーポン

物価対策重点支援金22億円が国から市に公布されます。それを活用して水道料金基本料金の2か月間減免と全市民対応の電子クーポンを配布することが決まりました。

電子クーポンを利用できない方には紙クーポンが郵送されます。

# 暮らしの相談から



## 相談

### 要介護独居者の引越し

一人暮らしで要介護状態の方が、急に松本に転居することになるので支援をお願いしたいと、他市の病院のケースワーカーから相談

## 対応

引越しにあたって、家族の支援が望めないとのこと、反貧困セーフティネットの方々と一緒に、電気や水道等の開通と最低限の家電の調達等の支援をしました。

## 相談

### 有料老人ホーム、利用料持ち出しで経営圧迫

生活保護利用者を受け入れている有料老人ホームの介護職員の方から、保護費の範囲内での料金設定をしているがそれだけでは賄えず施設からの持ち出しが大きく経営を圧迫してしまうという相談

## 対応

市内の他の有料老人ホームを調査すると、複数の施設で同様の対応をせざるを得ない事がわかりました。生活福祉課と高齢福祉課に、実態調査を行って施設に対して支援をするよう求めました。



## 相談

### 外国籍の方の窓口申請に同行

精神障がい者の家族の方から、自立支援の受給者証が数日後に期限切れになってしまいが、日本語が話せないで同行して欲しいという相談

## 対応

同じ外国籍の日本語を話せる近所の方が同席してくれ、申請の手続きの準備ができました。主治医の診断書も必要なので、病院にも連絡を入れ、行政と連携を取ってもらうことを依頼しました。

## ほっとひといき



ばあ「せなけいこの「ねないこだれだ」いなむらかずあの「14匹のネズミシリーズ」等が子ども達のお気に入りでした。今、子育てに忙しい親御さん、子どもと絵本と共にゆったりとした時間を大切にできる社会にしたいと思います。

### 絵本と私

障害児の通園施設や保育園で保育士として15年ほど働いてきました。又3人の子どもを育てながら絵本を読み聞かせる機会も沢山ありました。今は孫に読み聞かせています。子育て中はとにかく忙しい毎日でしたが寝る前の読み聞かせは大事にしていました。年齢と共に絵本種類も変わってきましたが、松谷みよ子の「いないいないニャー」等が子ども達のお気に入りでした。



新年の街頭宣伝



2026年度予算要求

### デイサービスの実態把握



デイサービスや訪問介護の事業所等が相次いで閉鎖予定と聞いたので、事業所を訪ねて施設長さんより閉鎖の理由をお聞きしました。

## 活動日誌

### 不登校と教育を考えるつどい

全県をオンラインでつなぎ、不登校への共産党の提言を学び交流しました。教員の精神疾患での休職者の増加と不登校児童生徒の増加が比例していました。不登校は子どもや親の責任ではないと周りの皆が認識するだけでも親や子ども達の心を楽にすると思えました。

